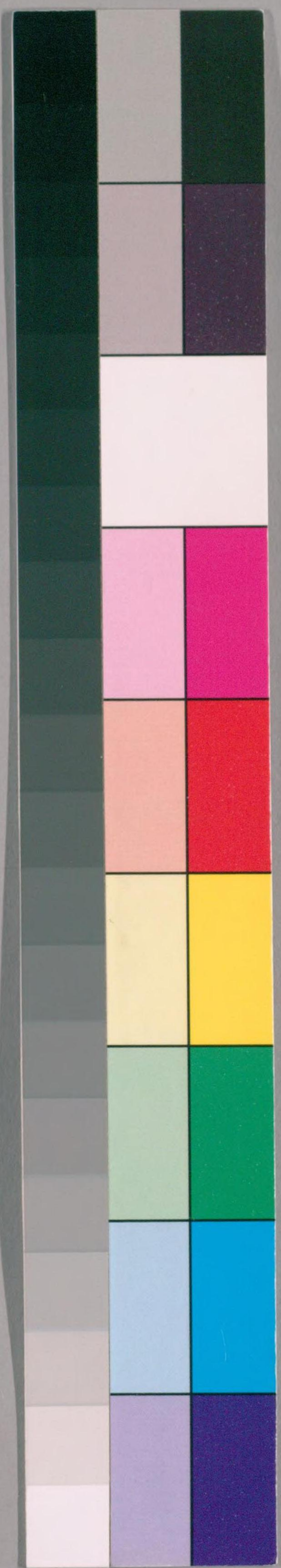


862
1

86

漂流記



国立国会図書館 タイトル『漂流記』 請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(86)

その家ハ其階少く石俵を升き所索中四十尺余り此大室にて
十畳と小畳と七八十畳と大畳とて凡二百間も有らんといふ
ゆ百仕給は人小黒人五人けり床の揚部一洗濯お殿
と女七十人余り黒人の索内少く扱く産婆も通るこ
れ入るる時間毎に洞管有りその管乃先一寸程の所を完
てう者くもえ給じなり行ひては給ぶとりのしりも
早此も本とてくゆと發し給ぶとて火と發し
管より發し給ぶとてくゆと發し給ぶとて火と發し
しり是と尋にありて黒人小黒人といふも發し給ぶ



獨考ふ礫黄と云り此を引く火を磁となんと思
 ひしう後より此ハ石炭乃精黄と管に注ぐ是亦火を磁
 とし此乃〜〜のふく市中悉く此管を注し〜〜油
 と用ひ是燈と云には磁少て家乃内ハ勿論を磁と云る
 ま〜〜時、夜〜〜日中此〜〜あ〜〜致し入費ハ口以
 へ〜〜人民乃爲す大益有り此磁を此板下を日本此
 穴黄乃〜〜堀〜〜と云り日光と云位を他〜〜軒の
 家〜〜別〜〜海世と云す是磁昌の古地〜〜
 塊代言此形のああり此位人ハ「テレカラフ」
傳信器と
「沢」は「カ」とと家業

と此サドス氏亭に〜〜は町〜〜我生國とハ日本里敷
 九百里毎〜〜た〜〜唯の海を〜〜と下〜〜
 け〜〜道は横少〜〜吉を遺ま、日本の時ハ〜〜の〜〜
 着作色〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 志〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 此〜〜其文ハ曰及申意「子ウヨク」と云此款とハ
 家内事〜〜掃除〜〜〜〜〜〜
 港の町 燕尾車着乃〜〜〜〜〜〜と認メカ〜〜
 見ゆぬ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

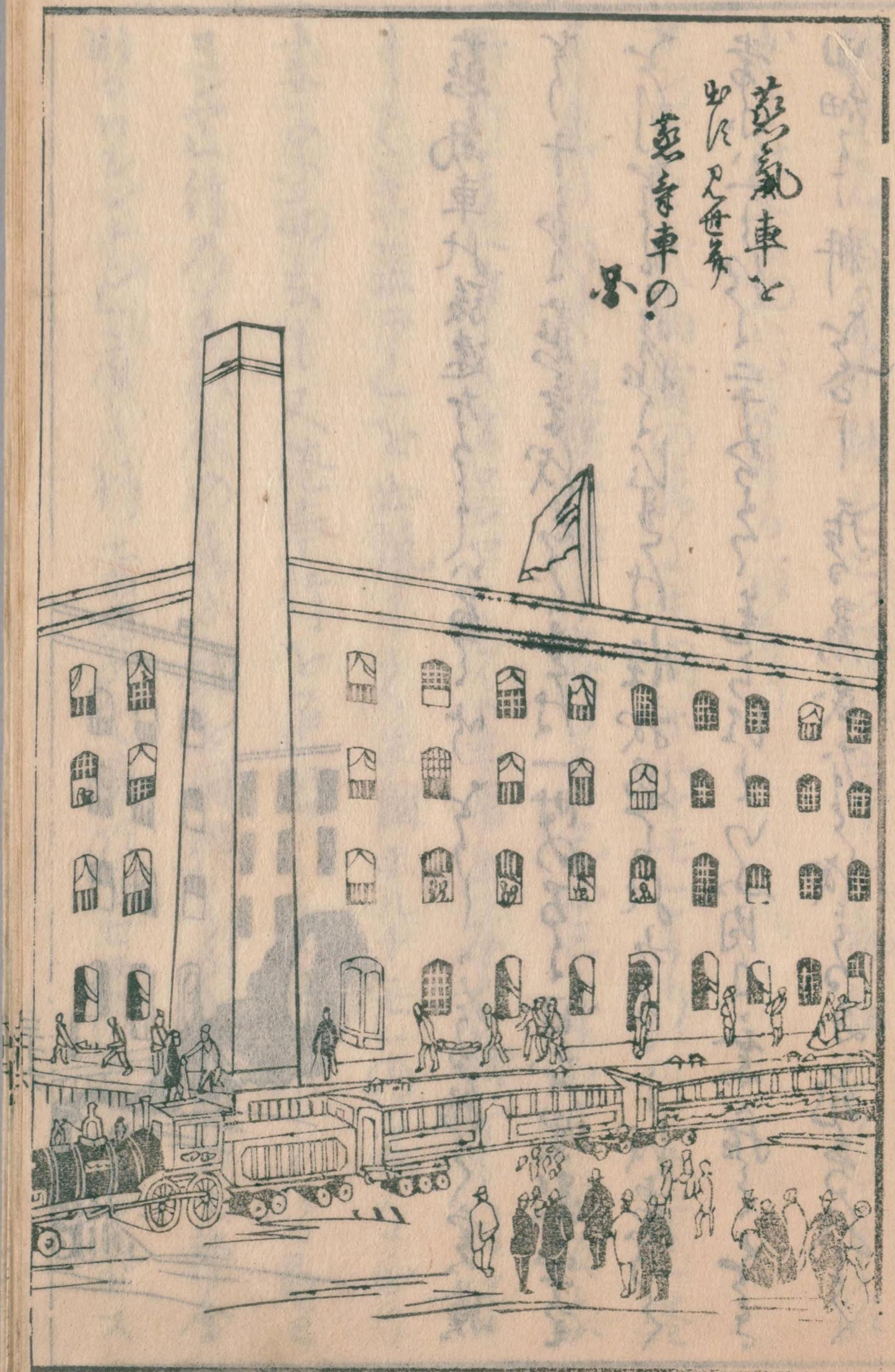
三十四



且てはけとる事たはる中乃エレキと細線も傳ふまは
 ともて海舟のくちくちと文とる一は来一瞬もくまは
 けらあり其仕舞と見しふなを成建く主夫小清もれ
 成はけもともあをけあやく細線とあ一法もにか
 らくぬもせ有るうとく有ハ世家く一宿一聖早船車馬
 けく一里がく行ふ川蒸氣船も乗すぬ六町の渡りとも人
 フロクフエととつ小所なりけ所より蒸氣をよる系朝もけ小
 出く夕七時よりサントス氏の家へまゝぬ

蒸氣車并そと出る家乃が

蒸氣車と
 出る見舞
 蒸氣車の
 景



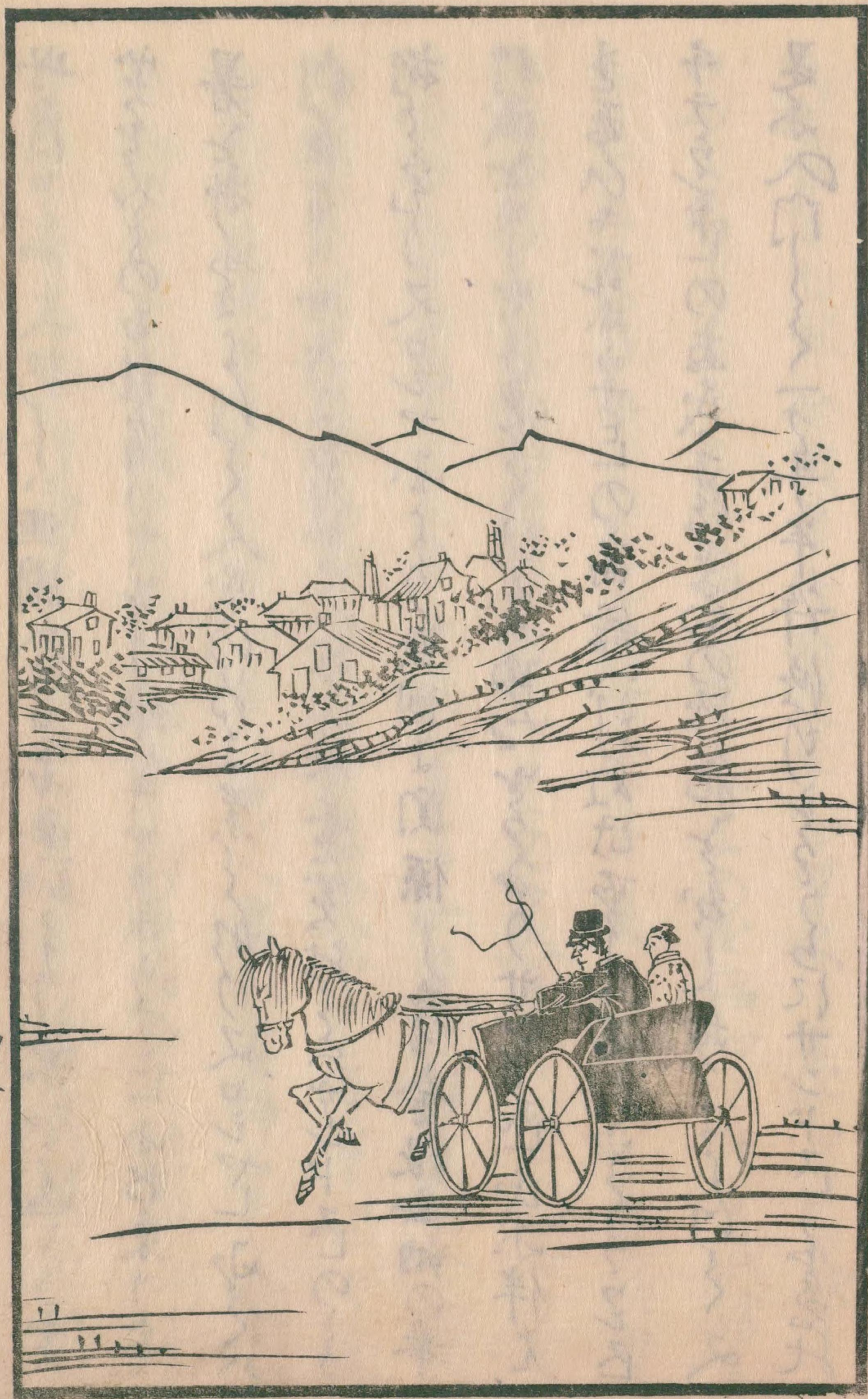
ワシントンの旗高小柱くすにまハハ日亜國王小對面なま
ちりんとまをけくくすん年思まを抱こ又城廓者まあ
んとまのひくお三日サンドスト小後まピヨストの屋あまり見
まは方二三町あく周圍ハ石垣まひるサ三四尺ま
旗のまあまけくろ極まひくま内小大ある二階ま
家あり大ぬくま高人の家まひくま大の家あり
只柱まひくま白色乃獵石まひくま結搦ま麓淺
あまると常人の家まひくまひくま大王乃任ま
業亦ま旗のまありト畫人まあまあまあま

とまは下男ま人あまひくま旗まあまあま
者あまひくまサンドストとまあま今小凡事まけりれ回二
つてまの同ま者人二人とま話乃極まあま次のま
動話のまを待者席り大勢自方まま我の極まあま
手を極りれ極りくサンドストより我人ま告まハ我
手極り極り自り極りま極りま我とまはま極
乃物極あるま正席小あんとまあま内外
と見まあま極りまあま家内又極りまあま
とる小あま目極あまあまあまあまは時大極のま



31
此は政府乃學校へ入るも法學回藝術と學をなす
用小遊然んと有る小サンドス氏自ら此入費はくも
ふくむとありてホルトモ小遊り來りて十日と居り
我が孫口とヤ小遊んとありけ童子は此少く學校
小遊り終業してしめりて妻を命りて遊り終るに
ふつて一月廿日サンドス氏の令身我と同伴して學校小
引入門もその際ハ法經家少く大先生以下教授も人十人
法生百五人千人居りて各國の言語宛理大文地理算法其
他音樂も多しと名乃ぬも小遊りて教授も一遊り

まへに教授と有りて一遊りと居りて多し同身とあり
との一遊り教授と法生は通ひあり又入塾の者あり入塾
乃者八月棒一月洋浪十二枚と出れ我月持ハサンドス氏
の略なり漂流人小遊りて歳已小遊りて法學通なるあり
一遊りもふりて能く法師とありて人列りて教員
一たり同塾の小兒も日本の半ハ万国志ありて多し細
記したるものありありなり小遊りてふりてや唯ありて
備へ小遊りて多し此學校小遊りて六月と居りて
暑法も多しなり法學は家ありて我も又サンドス



此度ロシヤへ行くハ亜國へオロシヤ^地より氷を送る賣
買をんとのお徒有つてなり氷ハキヤラホウナヒ小柄来り冬
暑と拂ふより人民の爲に業を成り又ロシヤにゆくハ
利益有り此故にお徒を以て氷賣買はサンドスの
柳と云り又ロシヤより亜國へ關係したる金銀出納の奉
行職をせしめしむるはサンドス氏小伴を
せよハキヤラホウナヒの高館へゆめは英人少くウラヒ
チテウソドの由成り後サンの階危を成し坊々をゆく又
是小の門へ一ヶ年半許修りしころにサンドス不意に

大抵となり戸と開牙代の改革とせらるるに於て我
りしはあつての始末と此とを信じて任を以て
是との修りゆく大方渡せし事はぬしと云ふ
此の海船と云向と修くサンドスの口入とメカレンと云
大向船なるは其景況をみるに日中ぬる七八十人の
人もつては僅乃大商人なるも僅八人ゆく万幸調り是
他より異械を以て人力を用ひと又虚礼虚飾なく法を
十ふにたつて急遽なく人を働かしむるありけり
居りし一ヶ年半許修りし亜國小セ子ターと云ふはあり此故

四二



法事は信の妻のこゝへ入りし中にとりてく再入りしに
 一とせりしは変りて一月をへてセ子ターとせり
 申う大頭領ツカシに乃前出の申付セ子ターに我を捕く
 者細と傳るツカシに六月ある大頭領は奉用せられし
 人あり亞國の法とて大頭領の誓う付ハ要路の役人
 僅くありし他は委く正役とて當正領のこゝとて役人
 と改めしるべきなり己に六月とてせりし頃改めし信
 誓くセ子ターにえふ食害とせりし日後書と業と
 此是ふよりく亞國乃法度大概とせりしうらた口ツク

とぞ天文測量航海の学士小次郎別録よりたり或日ツク
 来り此度字艦のおお梅と測量の爲る日本小波海ス業
 ぬ少り一五連んと云ぬおれ思ひきふわとて半船お
 折る者小同舟と成り船おの日よりサシラシスにせりて軍
 艦の用とせんぬは法より本事として先は出立は是れとて
 我は諸事と細く慈愛舟に乘法よりけりて舟難ひとあり
 といへ月此る小日本人十二人漂流し英舟にゆき是れ港
 來り船中法と見えしとせりし頃とて雨を以て小尾張の舟
 たり皆く此後のをひるるとせりし頃とて油木の舟とて

あり英の船なるありてはるのたつ國の妻子有るをれ
い序あることめ給れと頼り小使く諸令支那の香
港といふ英の船これ奉り西を回航しつゝ船を修す
とてし居しと後述しやう

安政七年八月二十六日軍艦の用を替りてサラランセスに
出帆し海を測量する一つ船を乗るが又早中旨をいへ
ントウナシ流るるを思ふ事有り大洋中の
深くまると思ふはるふの浅く地方をいふ
深く一里半ふふふ又無海流はちととりて減りに流る

乃破碎するに似たり是と指問ふ極むれば怪色條の粘
滑は似たりは是と考ふるも世の境を變化して海中と
たりし物なりんけは流るる中氷海とありて極をなすれ
十艘許あり居り極を中氷海とありて極をなすれ
らるるありて後述し定むるは是のこりふけはる
来りまるといふ又出帆し捕業をいふは鯨捕り也
我流るるの間鯨捕船二艘入津し一艘の方より彼を
改吉といふ者今一艘の方より流るる二人ゆりて来り
之人のよめを欲しといふは我を改吉なりといふ

以持し小大鯨鮫集り来りし是と嘗ふし耐鮫三四尾張
得くこれと見らる小鮫の尻呼吸し後く外字と吐納する如
しり形ら鱗は似く大なる魚也く再三餌と試みし
然ら鮫と餌を食ふ此魚の名とも先魚といふ舟路の膏
ともとのともをいひしやうかしくあつてもなるなり

一 サンドウ千嶋は日本と亞國の両間より有るく小嶋集り一嶋
とも一凡そ大サ我四國の半たり五十年昔英人キヤテンコ
ックは是を見出たけ世に白人裸才ゆく陸西とヤシの葉を
ともる麻布のしる織物といく處に於て是中なるを

あると嶋あり故に此島と自ひと又日本に見らる木の葉
多しキヤフテンに始り此島小海り一耐マトロスと白人黒人の
遠航者くキヤフテンに始り英船ゆきて是と英王
少と英王命とりし再ひ別人と後海をり文字と教へ
法強し強し人をもよほし漸くはふしけり
けりし我源海の時と凡そ十年に英船と見えし
英の法と書しけり人の思ふ如く賊し人種しおのての
支那人と書ししるる者ありし且小嶋ありて國藏りし
御書も不政の万国普通のはりあり英拂亞の如く法も

四二



洋海に流る横濱小引船して積手の患苦勞のこ
とくふ是くもさうしきゆいもむさなはは倭日本おしり
たぐみ人も西も世人信友多くもと愛國の多は年毎ハ
日用に善交り日本は事ハ智ひあけもは事毎は善交多く
又善交り流すれ目南なくは善交母乃西なれハ異国の人が小
て流る人もおさなは希くハ日本は讀書の多い時とゆ
日本人別々唐の亞國と日本は西間も在る西國のふる海
とゆく玉君と報んは成るはけりあり

漂流記餘話

今より凡二百七十八年前歐羅巴小千ノ口^{今辨良西}といふ所
コロンビとソム人もて航海を好む屢々天竺地方に來りて交
易をりてある南りく日本といふも力とゆてを西り
行んと志し思ふは地球ハ丸なり此は唐とを徹て行人より
ハ歐羅巴より西に向いて行ハ日本へ到りなむと思ひく不
スパニヤの王小錫一と程と解と王是小同志といふ船三艘
を艦装くコロンビとソム人もて航海の西に向いて行くと
數日果し一の大國小着たり海邊とも自さくハ日本
といわけて亞米利加たりコロンビとソム人もて西へ

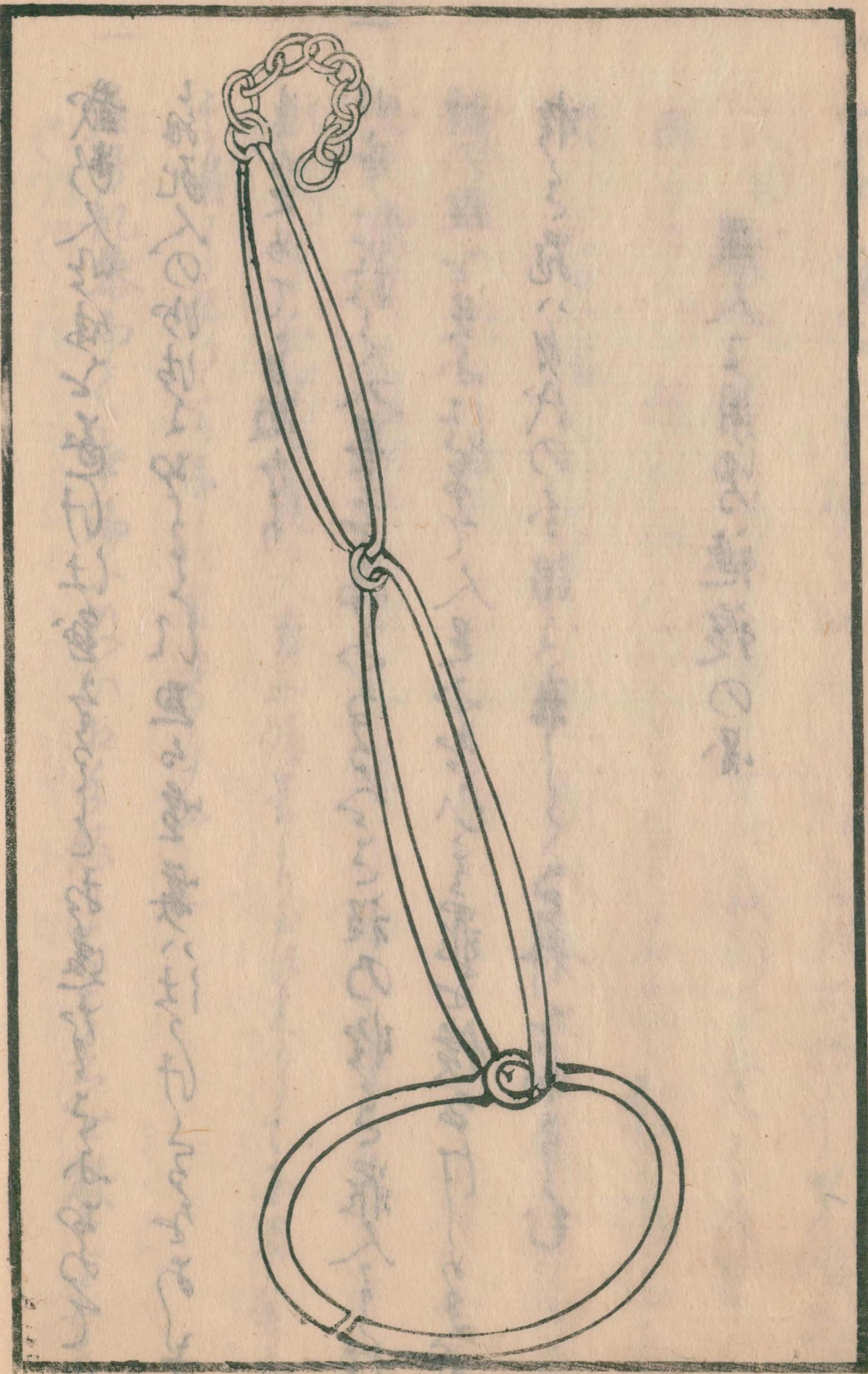
アメリカにどり初し又アメリカ人日本に渡りて港を
軍一ハ母海をく勝りコロネリスの志しとををりといふ
へコロネリスに亞米利加不修く此殊名宝物をほく海軍は
王に秘しられハ事々々々へイスパニヤハ勿倫各事よ
り南島のアメリカ小島りこ中英人の多く来りてハ心
アメリカに中央今此合流國なりと後英人住すの多く
國軍け交易とんに成りハ英王税とすくし民とくはし
り是よりうむむれ此島々々英國と離れ獨立國とせん
欲とれハ高人より武軍とら軍艦大炮備りて

る能ふしむする事能く英王の命不従ひ居りて後
り大北けりて亞國ハワシントンといハ大豪傑生る
け人の父ハ英國の産りて亞國に後り住んでワシントンに成
聲むワシントンに性仁愛深く私欲なく法教とすりて必
人の為ハ命とすりて人ありて幸ハの事作起り
獨りまといなりと能ハ英人來り住すぬありて
人者く是といニナンといハ性豪強をれり智恵ハ
く英人の為ハ勝りて是地とすもやすれハ豪勢を法の
御らばハく英人ともやすれとすりて英王亞米利

とるに是の御子孫に王位を傳ふも子孫に必しある
の事を生く五人とて一に國中一級如親の法とて治
平とありと六志の御ら五人とて皇族の滿なく皆同等と
之れ禄位とて其の御ら五人とて國人の位とありと
撰くは是れ後人との一に内なる御ら五人とて大頭
は小奉け法武を今小従ふへし也去人八位小唐とて永
く是れ驕奢出づるものなれは左位四年にゆく位紙
とて後人へ傳り又他の賢人と撰んと位とて一へし
と論と氣皆私欲なく五人のあり計る小志伏して

主法御用ひ今尚四年目小大頭御起り主法御役人其
要路に居る外ハ皆愚小偏あり委しく逐收して更小撰用は
なり大頭御起人をも後人乞り下役御役の御頭人此
の御用ひを新し撰用たり

一 亞國とあり人相撰むは方ハ亞國二十六部別之二十六個
り於て御ら五人入札とありと御ら五人と撰む是も又
四年と御らとしくと御らと裁断とて下役ハ御ら
乃月鏡とあり人と撰む御ら五人の重立とて御ら御判し
く是と御らと化一級より二人と撰んとせ子孫とて



一 密通するべきは密吏の才代限をなく守吏より久し密吏は任
而と拂女の親族の縁を断ぐ密を断ぐは新女の再の縁成
法をもたしむ一生色を賣りて活弁なるは悪玉の世女
想く不義家名を断ぐ女を集りて自ら色を
たり親の子を賣れ断ぐは親とて子を賣ること
わらふ必以罪をさす
此文筆者の言を信じて思ふ所の所は違ふも書さるるに
其後小なり書ぬ

一 寺の布衣ありて人民よく信心をこころは僧ハ必學問を
て法教不語て勸善懲惡を目的とて人と教化傍
ら讀書を好み妙法乃師と仰ぐて主殿とつてありて

五十五

ちる者自然と法人より其教の方なり僧より其位を定
 左に其ありは是の人は其位を定家内八回宗より其位と
 業帯僧の二流有然の僧乃法律の者なり此ハ法律是を
 一人乃其法小のハ政府より其位を定其位を定其位を
 有是其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を
 領と其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を
 と其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を
 を其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を
 其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を

以て流と其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を
 其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を定其位を



僧の姿

害と生はるし

一 簪礼亜国に於てハ男女は十四五歳より心けしめぬとなり
一生を人殺しとせしめりてハ嫁姑とせしめり男女
おのづからいふ所ハ三五年婚を成さずの事あり行状と
尺合とて期を待つて兩親へ告げ傳へしより娘女の朋友七人
同様の粧い小物とて中人のそ白とすしと被り男とす
朋友五七人と伴ひ是ハ双方此親類分派く寺へ行て後
一とせしめり後また此と改めり神ふれ而側ハ双方細
らへ並一生といふけ夫婦の道と尋人といふ事と神

かきし解とせしめり経とて又終く男は儀中より指
痛とせしめ女乃無名指とせしめは輪ハ飾りといふ事
のそれとてい用となり輪ハ始となく終りといふ事
そのありありとせしめり用となりけ礼法と
ありありと密をとりて一露をすまはし又ぬくあり
とけしめ人昌乃交りてそのあり風習なり 亜国ハ
一男一女乃定りけしめハ勿論世女とて男といふ事
定りてハ禁制なり是は代把とて入牢とて其罪
と懲らしめたり又身分何々の酒店へ入浴とて

五十九

いぬに毛毳を女藝を如く更ふこねり
一 亜國より正月元旦汝始として九月の百年代のよ
海といと云ふつとあまも能き改められといす
くし記れを「ワシント」に大及誕生自ハ二月廿二日此日
ハ全西中 法民潤煉とる一各家酒者とくこれい
記ハ西中一日本乃法守系礼乃く一七月廿日英王
の支配と離るく「ワシント」に 共和政治の法と定め
前民自自由と得るく一又十二月廿五日ハ
法教といく人乃法教する聖人の誕生自よりけい

いぬに毛毳を女藝を如く更ふこねり

一 是后九月廿乃く古事とえくして勸告激悪残
俗人よま一ひつ成目的と見物ハ大改修く一法民
くく美をな一有ハ度大羨小くく一乃く一
幕乃揚下一ふく一と皆は我く一是又一見
物あり我ハ入るハランブ地内とあり
はくといふと刻ハく一乃く一
中より色物あり一は純く曲馬猿のく一
嘲諷の如く大回小異く一新奇れと
多一

一 角力と有り又目かふこはあつては喧嘩海世のものあり
 是は日おれ窮合乃こく力極あり五く四く三むし
 動ると組合お合甚くこは死さむるものありとん物
 人双方より掛金をこく掛負と樂とするあり
 一 武藝ハ火術とまこして珍奴業術皆は業いらいハ
 願ふ小用りこりこりこりこりこりこりこりこりこりこり
 軍節く用り半 美ふは皆ゆり今程惟美人のりり
 ぬとらる事一 管人のさるふたなり

歐羅巴將基の圖

〔王〕日本の王の動の如くして一ツ異なる動さあり此の動さハ王と城の居所ハ
 全桂う角の場ハ城と移して王を囲ふと有也此時王と城と二枚の駒と度
 小取替り動を但し〔桂〕〔角〕已よ出く其場さる小みされハ移せと依るべき
 〔王〕二度動き後入習の事を教をもとを許さん

王	城	王	城	王	城	王	城	王	城	王	城
歩	王	歩	王	歩	王	歩	王	歩	王	歩	王
歩	城	歩	城	歩	城	歩	城	歩	城	歩	城

〔女王〕日本の飛車角の成るとる駒二枚の動さと至
 一枚の駒よて動と知るハ
 〔角〕日本の成らるる角の動さ小同
 〔桂馬〕日本の桂の如き動さよて八方小動くる也



〔城〕ハ日本飛車の成らざるもの如く十文字の小動くあり

〔歩〕ハ始めて進む時ハ二階出るも二階一度小進も都合はありされども相手の歩を越
ふやうハ二階進むと終りも又敵の駒を取るには角と連ひ又動くと進み日本歩の歩と
同しく進み歩双方出て頭と合はれハ五三進むと終り但し外の駒未りて先の歩を
取らば道のりハ又進むあり

一 日本將基の如く取らるゝと又オツキキ

一 何駒でも敵地の格終りの二階小入ま、我ら好の駒小成、コレは共盤中自分小
有る駒よりいふれも女王は歩り成り又ハ角桂小成で城り角桂女王小成も心決り
右將基の外カルタ玉撞の類勝負事多しといふも因基ハいさゝか兵多し

将基の如く取らるゝと又オツキキ



小部の
鉄船を
陸上置

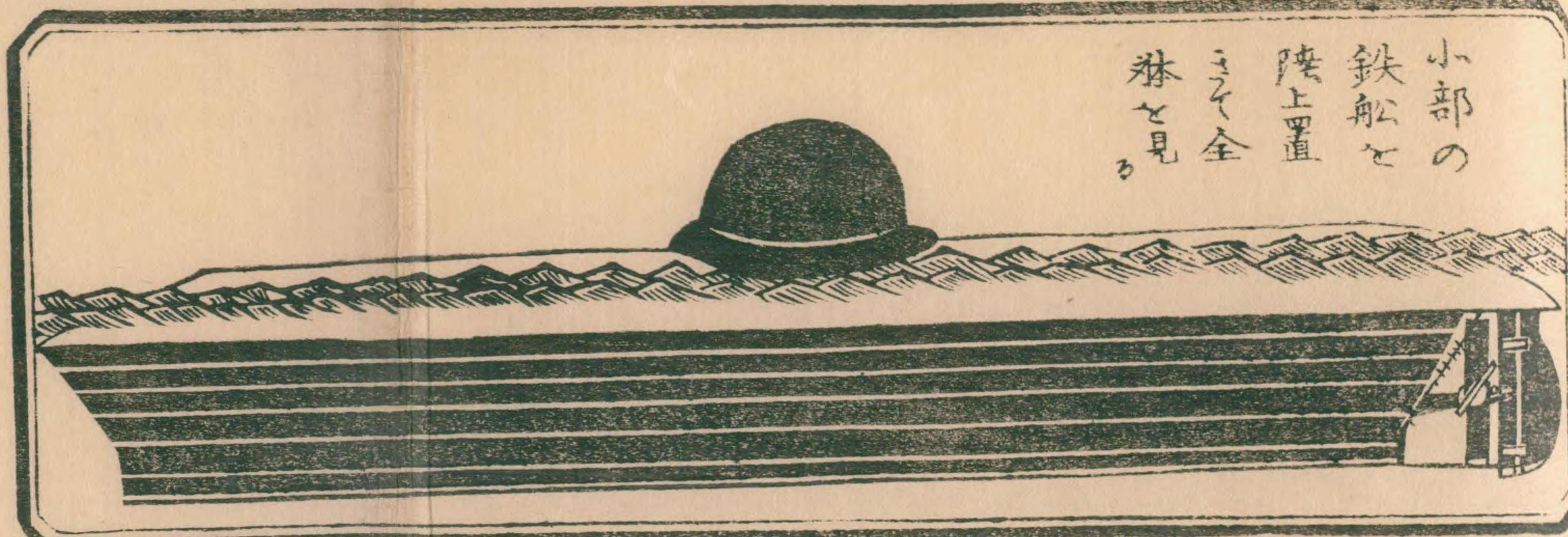
小部發明の鉄船
これモ子タヒ
名

南部新製の鉄船
あせとマルマキ名



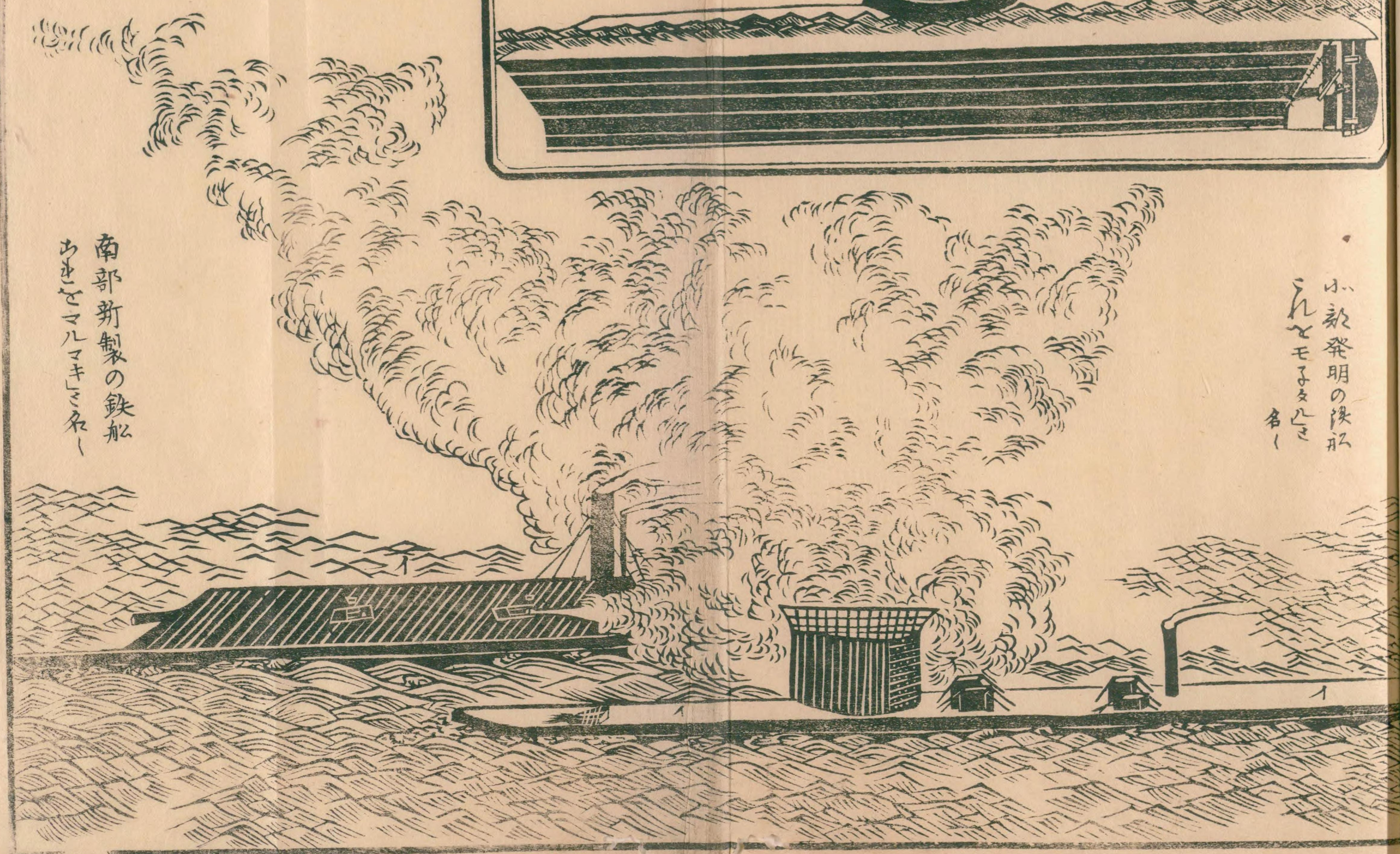
右將其の外カルロ玉撞の類勝負事多しといふも固其のいふ事多し

小部の
鉄船を
陸上置
きて全
林を見
る

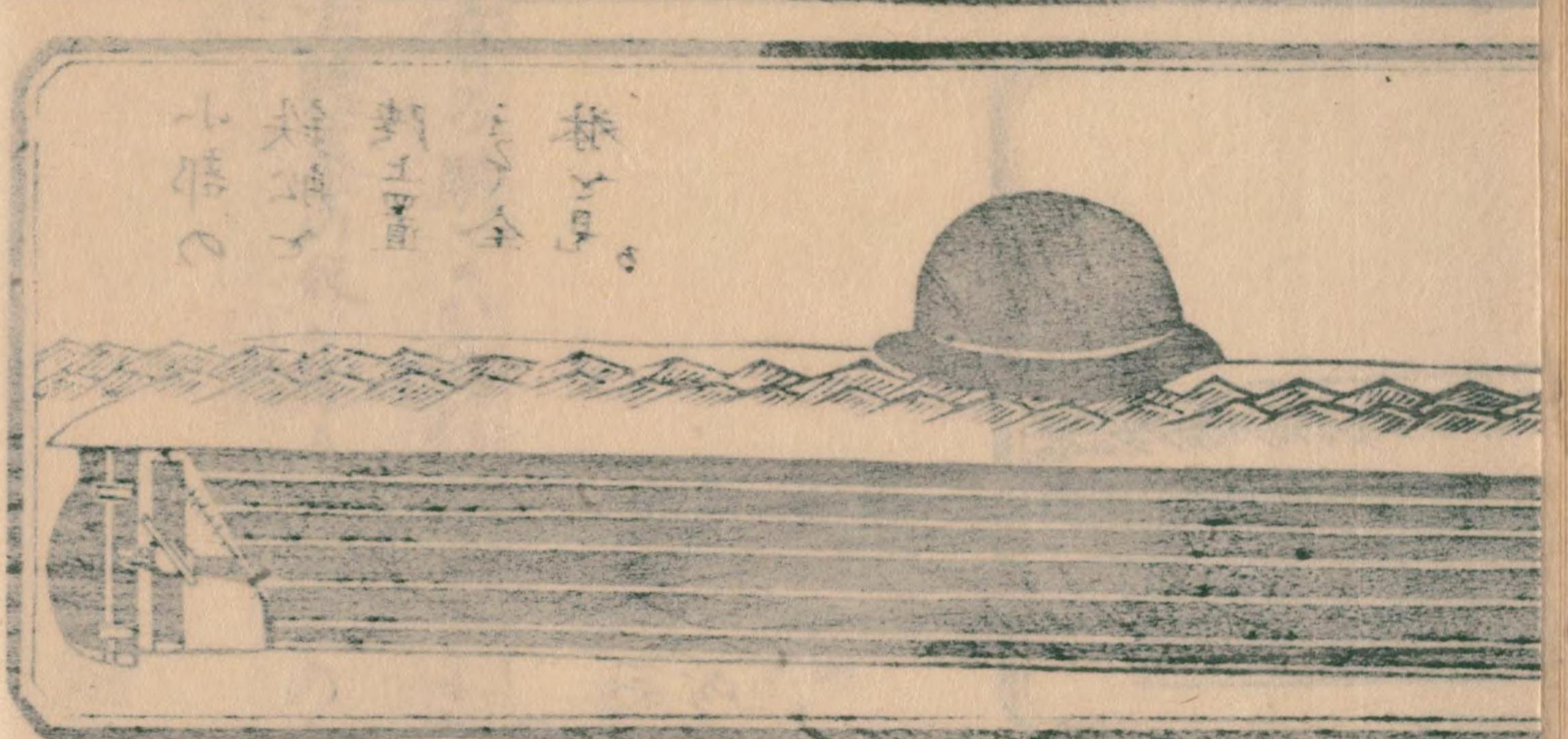


小部發明の鉄船
これモ子々名

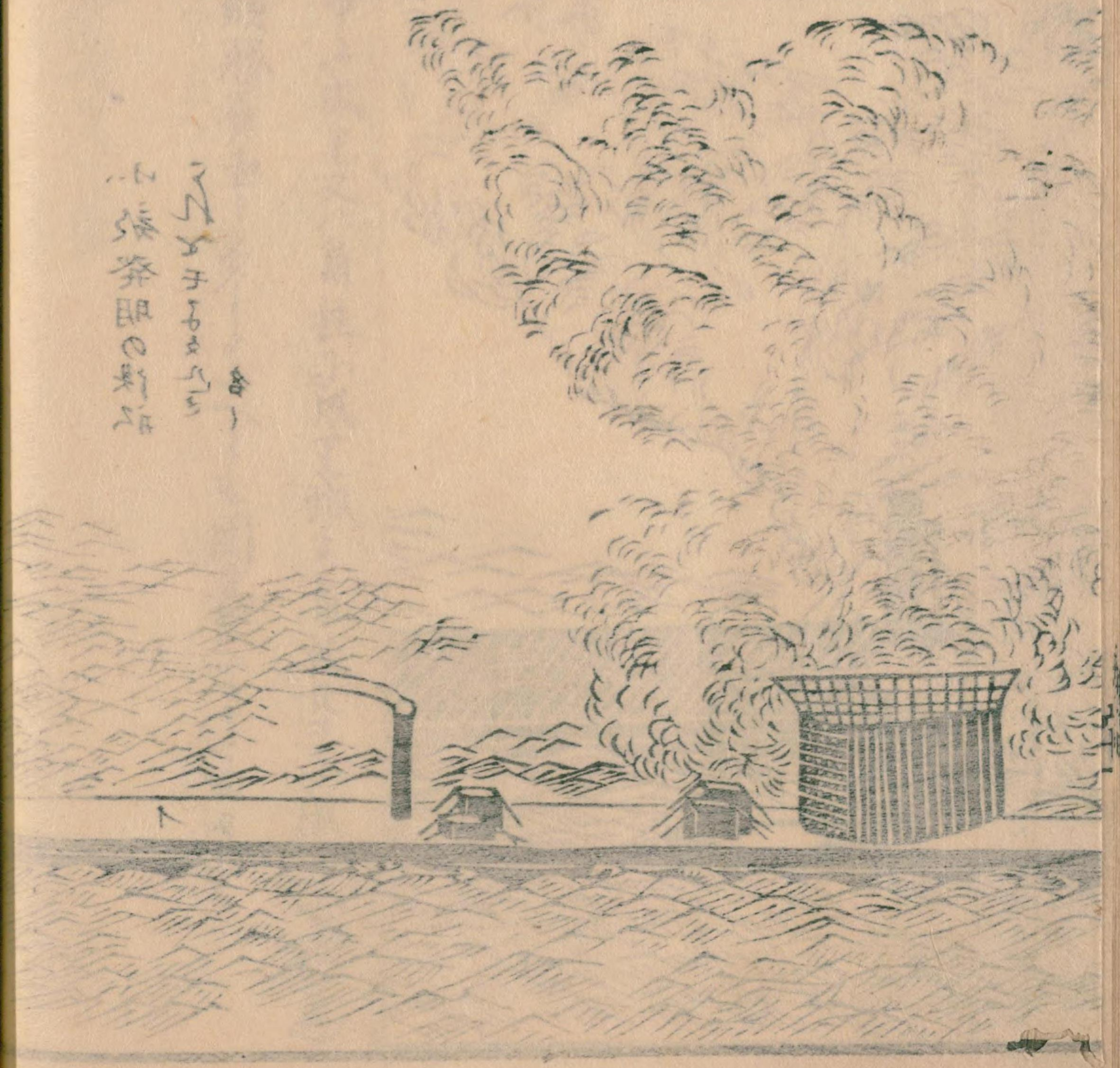
南部新製の鉄船
あせでマルマキ名



右、亜國の南部において鉄船を新製し、大軍艦を破り、圍り、此船の
 厚さ鉄を以て製し、九四五百馬力の蒸氣を仕、愈々船の全体を炮玉
 のごとく造り、凡して兵卒八、僅小無組、数多の軍艦を悉く以て、無二、無三、不
 索、付を敵船と、打碎して、敵より、七、炮丸、を、砲、飛、て、貫、く、事、終、然、
 たり、やう、小、造、り、あ、く、亦、炮、費、も、致、し、實、小、軍、器、の、重、寶、と、り、下、り、去、
 大洋を渡り、又、運送の用、な、り、淮、港、を、發、固、し、船、の、戦、争、に、用、ひ、て、其、場、
 より、遙、く、勝、る、此、船、も、造、り、造、る、と、や、て、小、款、も、亦、鉄、船、を、新、造、し、争、戦、し、
 候、に、互、小、鉄、船、を、一、故、小、款、十、分、の、功、を、致、し、ん、あ、小、款、由、致、し、て、鉄、船、
 を、製、し、て、中、軍、艦、を、破、り、七、破、り、大、敗、を、取、り、し、南、今、又、別、小、款、小、お、ひ、て、



鉄船の
 新造
 大軍艦
 七破り



小款の
 大軍艦

鉄船三艘の製造は幾れ其費へ一艘百万洋金と云ふと
云々之を圖と見ゆ

小鉄船

(イ) 八松の全鉄の厚さ水より出る所ハ三四寸水中ハ寸分薄

(ロ) 八形ち圓く炮門一ヶ所にて自由ニ輪轉ニ此を炮臺と

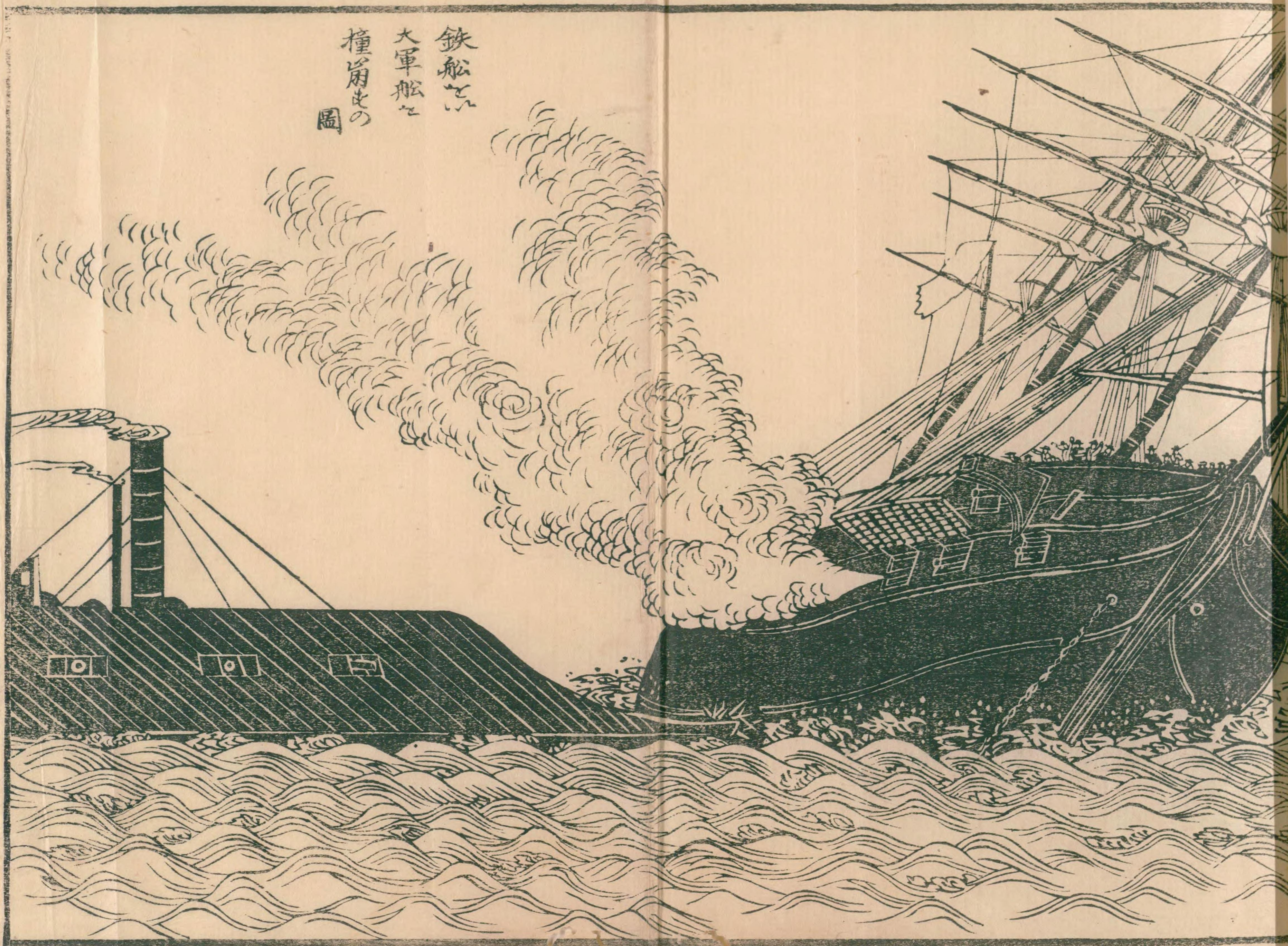
(ハ) 八煙口出——(ニ) 八日光と入ると亦空ニ氣を出るとも

あぶ鉄船

(イ) 八屋根の形ち丸く帯ハ鉄の板の厚さ幾れにて造り炮門前後左右
於て七ヶ所小いらき小鉄の船と重

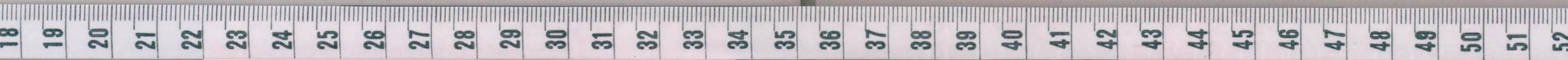
(ロ) 八炮門 (ハ) 八煙口出





鉄船と
大軍船と
撞角の
圖

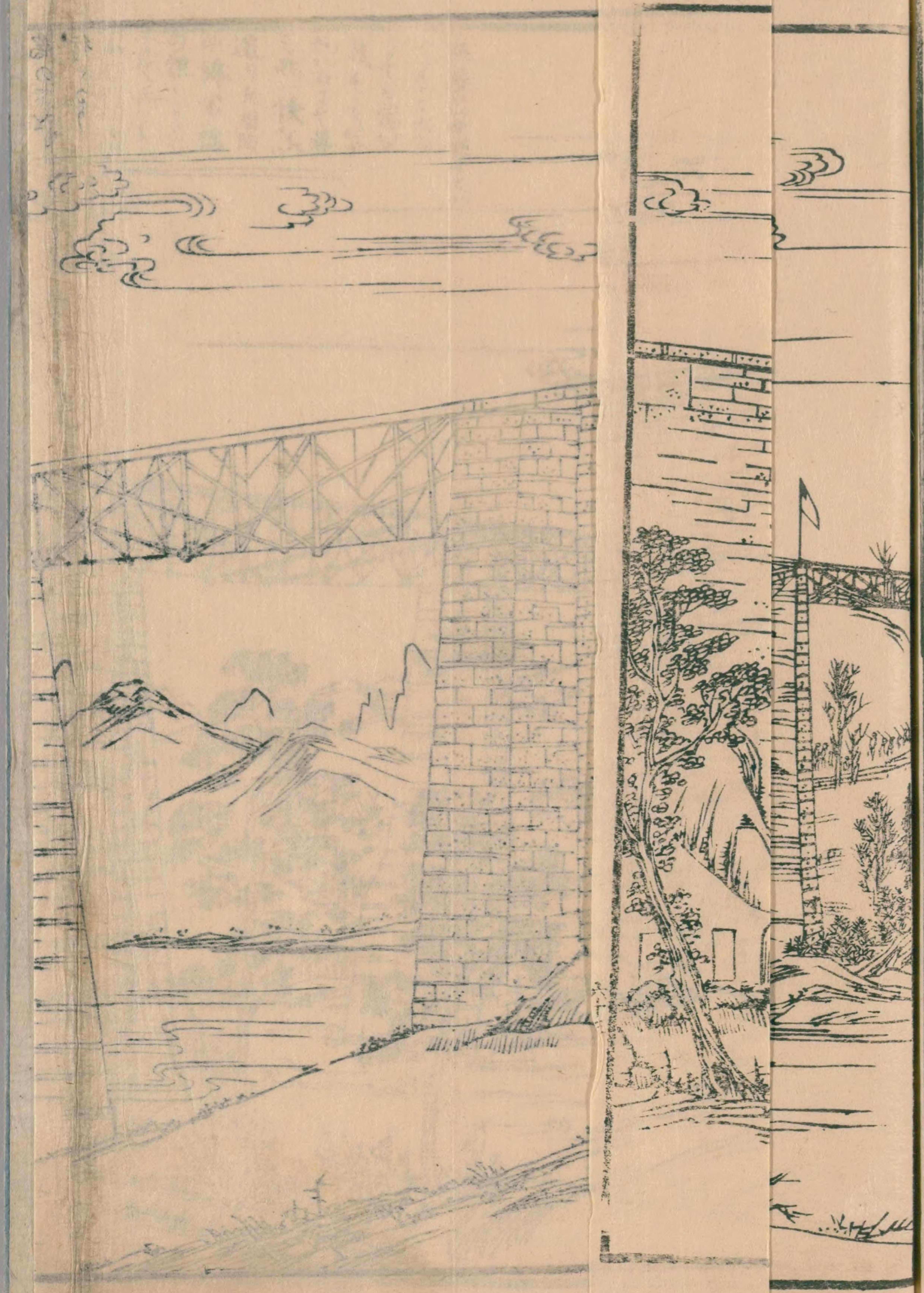
於て七ヶ所小いらき小航の船と重
（一）八炮門（二）八煙口
大軍船の撞角の船と重
大軍船の撞角の船と重
大軍船の撞角の船と重



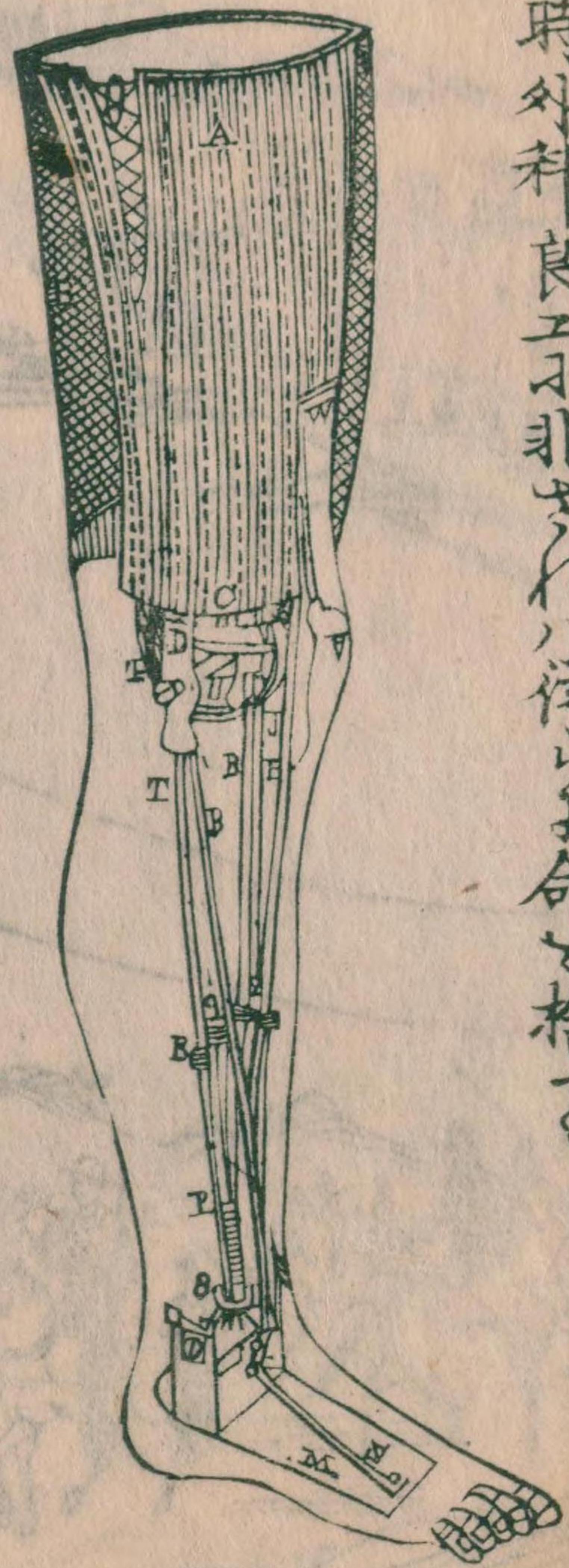
葛原車ノ家
 葛原ハ旅人ノ物
 人ト云々
 一町二十五里
 一町二十五里
 一町二十五里

テリガラフ
 下に馬ノ鋼
 テレンコロ
 是ハ一町
 一町二十五里

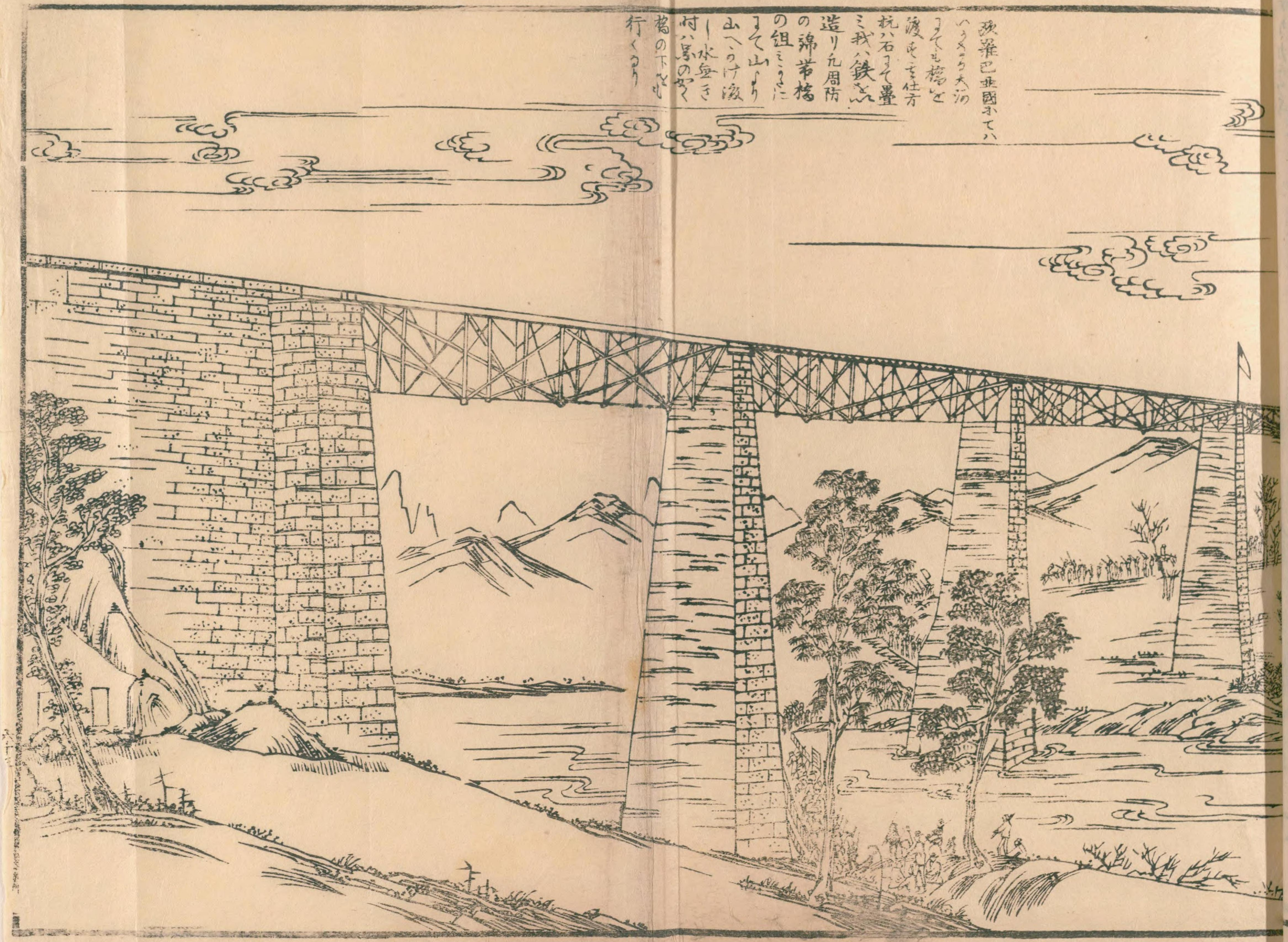


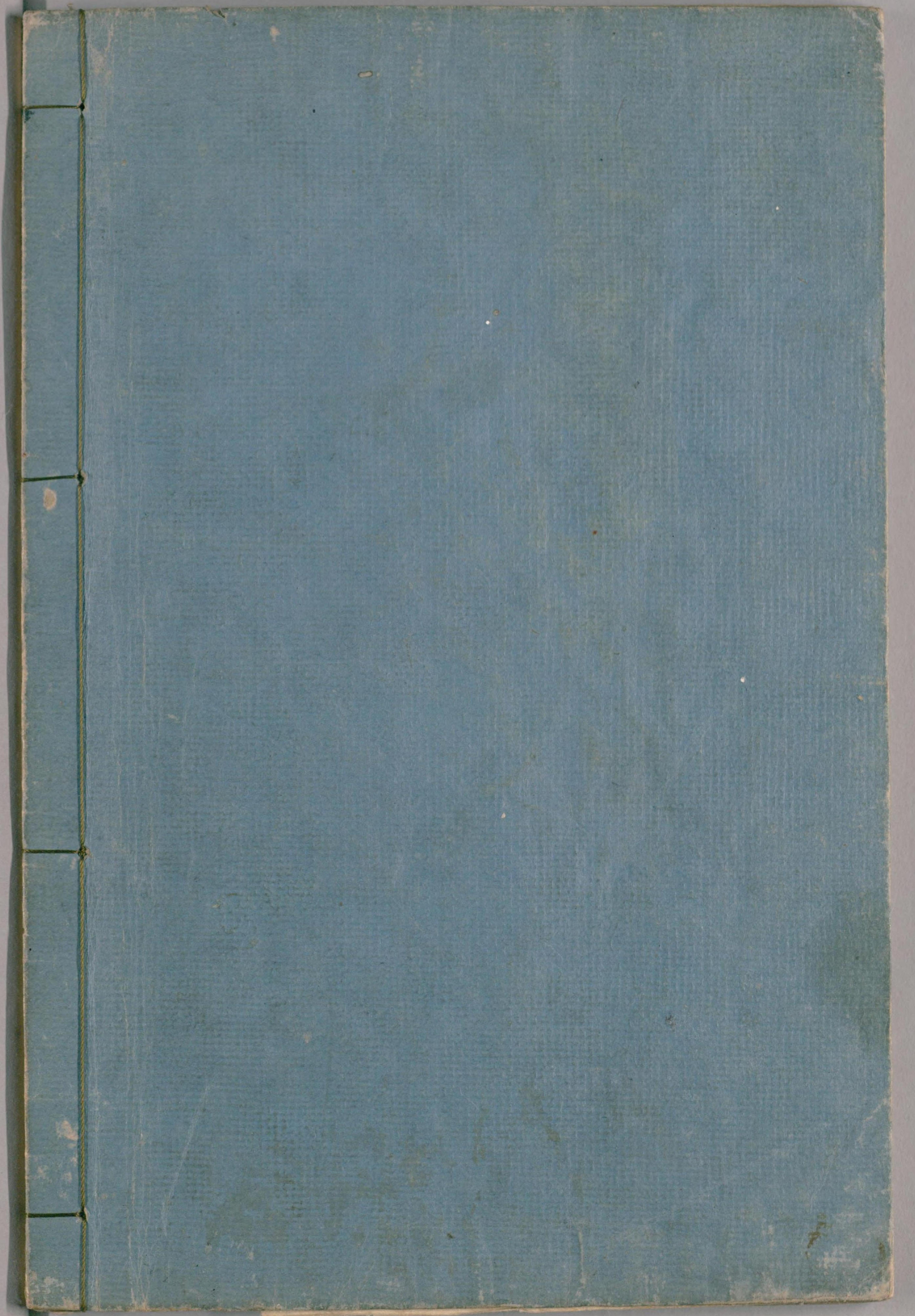


炮丸小當り或ハ脱疽其他経我より豆を破傷シこれヲ爲ス
 終ニ亡命ギンニする者ハ其部を切リ捨て人ニ小豆を造リ用
 主ハ康健の者小同ニ動作を致シ此細工致羅巴おひてハ昔
 小豆有りニ其間をとも交シハ合ナク殊小眼前不見ル故ニ
 此處小豆若争戦ナ有特外科良工ニ非サレハ徒ラ命を捨て
 或ハ廢人ニナリ



英羅巴亞國にてハ
ハムス大川
橋を造ル
抗ハ石ヲ用
ミ我ハ鉄
造リ九周防
の綿帯橋
の紐
山ハ一ツ
水登リ
村ハ馬の
橋の下
行く





国立国会図書館 タイトル『漂流記』 請求記号 862-1

ガラス使用